

令和3年3月19日（金）LT時に2年生が豊橋市民病院副院長の河井通泰先生によるがん教育講話を放送で行いました。終了後、生徒からの質問・感想を送ったところ河井先生よりお返事をいただきました。内容は以下のとおりです。

Q1: TVでステージ4のがんだった人がいて、その人は残りの人生を楽しむためにボードゲームをやり始めたそうです。そしてそのボードゲームの世界大会で優勝したので久しぶりに検査を受けたら治っていたそうです。なにか夢中になれるようなことをすれば治るのですか？

Q2: 病は気からという言葉がありますが、前向きな患者さんと後ろ向きな患者さんとは治療速度に違いはあるのですか？

A: 夢中になって何かを行う事が良いかどうかはわかりませんが（おそらく良いでしょう）、気持ちの持ちようで治療効果に差はあるようです。またがん末期に緩和ケア（痛くないように、つらくないように、苦しくないような心身サポートケア）を受けた方が、受けない方より生存率が高いという結果もあります。

Q3: がん検診にはいくらぐらいかかるのでしょうか？すごく高いなら、日本の2人に1人がなってしまうのだから、安くできたらすごくいいのにと思いました。

A: がん検診は保険適応ではありません。人間ドックは自費です。しかし勤務先の会社等で社員に安く受けさせているところは多いです。また市町村でも公費補助で（自己負担額が少ない）住民健診を行っていますので積極的に受けることを勧めます。市町村役場で聞けばわかります。

Q4: 抗がん剤の副作用は例えばどんなものがあるか？放射線による治療によって将来何か身体に不調があるのではないか？

A: 自覚でわかるものは、悪心（気持ち悪い）、嘔吐、脱毛（通常はまた生えてくる）、下痢などです。ただ最近登場した新薬では全身の臓器に影響が出るものもあります。治療前に主治医の説明を受けて納得した上での開始が良いと思います。放射線治療は全身ではなく、体の一部に行うものですので放射線を当てる部位での副作用となります。喉近くなら物が飲みにくいとかです。お腹に当てると腸閉塞を起こしやすいですし何年もたってからそのようなことが起こることがあります。また精巣や子宮、卵巣に当てるとその臓器の機能が無くなりますので注意が必要です。

Q 5 :治療はどの病院でもすぐに受けられるものなのか？

A :日本のがん治療の中心は国立がんセンター（東京）ですが、各大学病院でも先端治

療を受けることができます。それ以外にも各県内にセンター病院があります。愛知県には愛知県がんセンター（名古屋）があり、連携する病院として地域がん診療連携拠点病院の豊橋市民病院があります。これ以外でもがんの種類や治療内容によっては対応可能な施設も沢山あります。

Q 6 :がんは最初臓器の表面にできることが多いですか？内部にできることが多いですか？内部の場合、どの治療法がベストですか？早期発見とはどのくらいの大きさで発見されることですか？どのようなしくみで細胞分裂する時に変異するのですか？なぜがんは免疫細胞でやっつけることができないのですか？

A :最初にどこにできるかは、できる臓器によります。肝臓なら内部ですし胃や大腸なら

消化管の内側の表面にできます。どの治療が良いのかも、どの臓器にできたのか、どの程度進行しているかによります。また早期発見の大きさも臓器によって異なります。各臓器にはがんの進行期というものがあり、1から4期に分かれて説明されます。通常1期は早期と言えます。細胞分裂の仕組みや免疫細胞とがん細胞との関係は非常に複雑で、本当に理解するには勉強して何年もかかります。免疫の仕組みを利用した治療が可能な時代になってきており、実際治療薬が使われ始めています。興味あるようでしたら是非とも医学の道を選んでください。

その他多くの感想を寄せていただき、ありがとうございました。テレビや新聞等でもがんに関する情報が得られますので、興味を持って見たり読んだりしてください。ただしインターネット等には誤った情報もありますので注意してください。